

# 子どもたちのために

～小・中学校の学校規模の適正化について～



広島市教育委員会

## 小規模な学校の特徴とは？

広島市では全国的な少子化の進行の中で、小・中学校に通学する子どもの数が大きく減少してきています（詳細は最終項を参照）。そのため、クラス替えができない1学年に1クラスの学校や複式学級を編成する小規模な学校が増えています。

こうした小規模な学校では、家庭的な雰囲気の中で子どもたち一人ひとりに目の行き届いた教育ができるなどの良い面がある一方で、以下のような課題も指摘されています。



### 小規模な学校の課題

- 学習の中で多様な発言が引き出されにくく、多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しく、多角的な視点、新たな発想を得る機会に恵まれません。
- 音楽やスポーツで競い合うなど、クラス同士が切磋琢磨する環境がないため、子どもの意欲や成長が引き出されにくくなります。
- 体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団で行う学習が難しくなりますし、クラブ活動の種類が限られてくるため、希望のクラブ活動を選べない場合があります。
- 「算数は〇〇さんが一番」といった序列ができやすく、教科等が得意な子どもの考えにクラス全体が引っ張られ、そうでない子どもは受け身になりがちです。
- クラス替えがないので友人関係が固定化しやすく、いったん関係がこじれると修復に時間がかかりますし、新たな友人関係をつくる力を身に付ける機会に恵まれません。
- 先生と子どもとの心理的な距離が近くなりすぎ、先生への依存心が強まることもあり、こうした場合、子どもの自立心が育ちにくくなります。
- 集団の中で、自らが主張することや他者を尊重する経験が積みにくいと、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくいとされています。
- 保護者の数も少ないため、PTA活動の負担が大きくなります。また、登下校時の見守りなど安全確保の体制づくりも難しくなってきます。



## 小・中学校において望ましい学校規模は？

学校では、教科などの知識や技能を習得させることはもちろんのこと、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、お互いが切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題を解決する能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが大切なことは言うまでもありません。

こうした教育をしっかりと行うためには、一定の学校規模であることが望ましいと考えています。

### 望ましい学校規模

**小学校：**1学年当たり2学級以上（1校当たり12学級以上）

**中学校：**1学年あたり3学級以上（1校当たり9学級以上）

※ 広島市立学校適正配置等のあり方に関する検討協力者会議（平成21年3月16日報告）から



## 教育上の課題が大きな学校を優先します

望ましい学校規模は小学校で12学級以上、中学校で9学級以上ですが、広島市ではこの学級数に満たない小規模な学校は数多くあります。そのため、小規模な学校の中でも教育上の課題がきわめて大きいとされる複式学級を編成する学校や将来的に複式学級の可能性のある学校を優先して取り組みます。



## 子どもたちの未来をみんなで考えましょう

子どもたち一人ひとりは無数の可能性を持っています。そして子どもたちは地域の未来の担い手でもあります。かけがえのない子どもたちが健やかに育ち、無数の可能性を伸ばしていくために、私たち大人が果たす役割はきわめて大きなものがあります。

学校は子どもの教育のための施設ですが、地域のシンボルとしてみなさんから愛され、親しまれるなど、地域にとってかけがえのない存在になっています。そのため、学校規模の適正化の問題は行政が一方的に進めるのではなく、検討の段階から保護者や地域のみなさんと十分な話し合いを行いながら、子どもたちのより良い教育環境のための具体的な方策を検討していきます。



## 学校が適正規模になってよくなること

学校が適正規模になることで、子どもを教育するうえで、グループ学習や班活動が活性化した、授業で多様な意見を引き出せるようになった、音楽、体育等の集団で行う教育活動、運動会や学芸会、クラブ活動などが充実した、バランスのとれた教員配置が可能となった、保護者同士の交流が広がった、PTA活動が活発化したなどの効果のほか、以下のような子どもへの効果も報告されています。

### 子どもへの効果

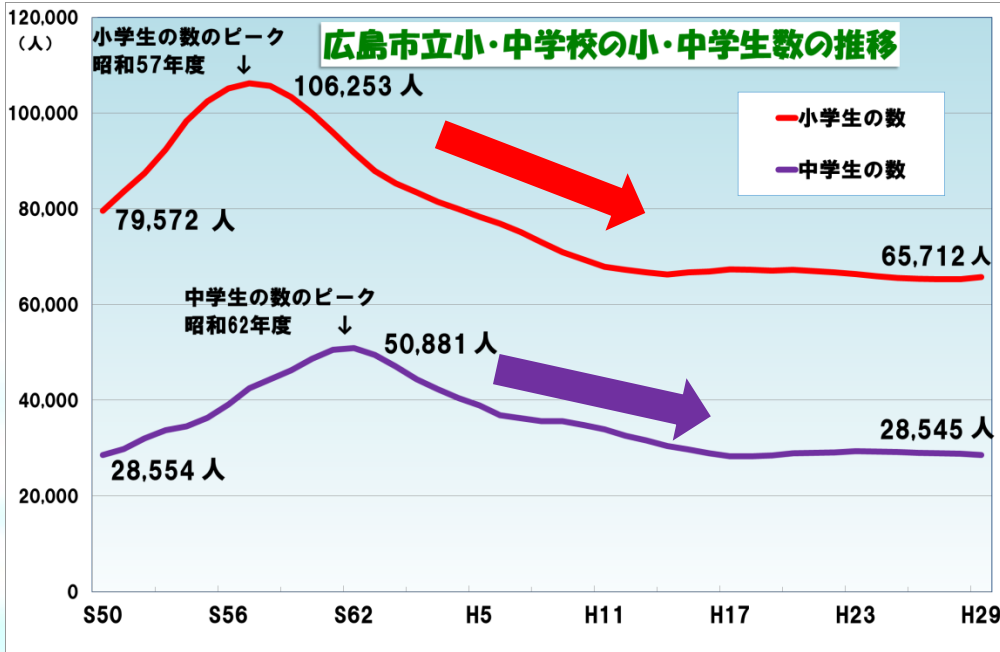
- ① 良い意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった
- ② 以前よりもたくましくなった、教師に対する依存心が減った
- ③ 社会性やコミュニケーション能力が高まった
- ④ 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上した
- ⑤ 友人が増えた、異年齢交流が増えた、男女比の偏りが少なくなった
- ⑥ 多様な意見に触れる機会が増え、物の見方や考え方が広がった
- ⑦ 集団遊びが成立するようになった、休憩時間や放課後での外遊びが増えた
- ⑧ 学校が楽しいと感じる子どもが増えた
- ⑨ 進学に伴うギャップ（大きな集団への適応）が緩和された
- ⑩ 先輩が増えることで多様な進路が意識されるようになった



## <資料>

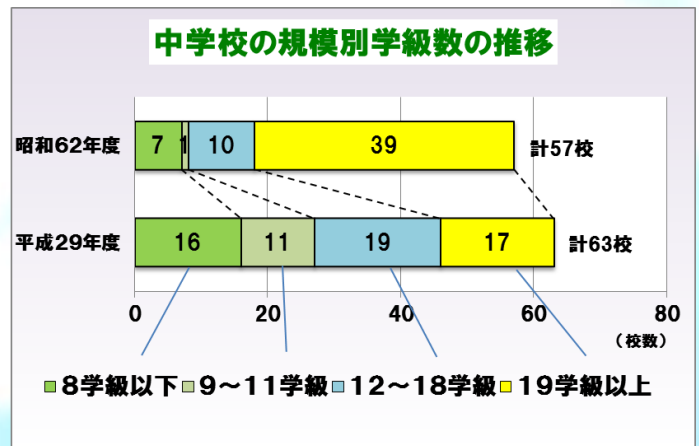
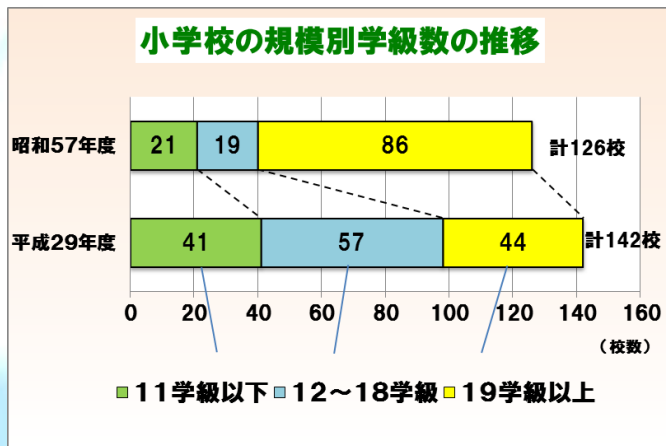
### 広島市でも子どもの数が減少しています

出生率の低下に伴って、全国的に進んでいる少子化は、広島市においても例外ではありません。広島市立の小学生の数はピーク時（昭和57年度）の約62%、中学生の数はピーク時（昭和62年度）の約56%にまで減少しています。



### 小規模な学校が増えています

広島市全体で小・中学生の数は減少していますが、一方で、小・中学生の数のピーク時以降も宅地開発が進み、人口が急増した地域では学校の新設を行ってきました。このように学校の数は全体で増えてきた中で、学校の小規模化は進んでいます。



## 子どもたちのより良い教育環境のために

### 広島市教育委員会事務局総務部施設課計画係

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目4番21号  
TEL：082-504-2479  
FAX：082-504-2142  
E-mail：kyo-shisetsu@city.hiroshima.lg.jp